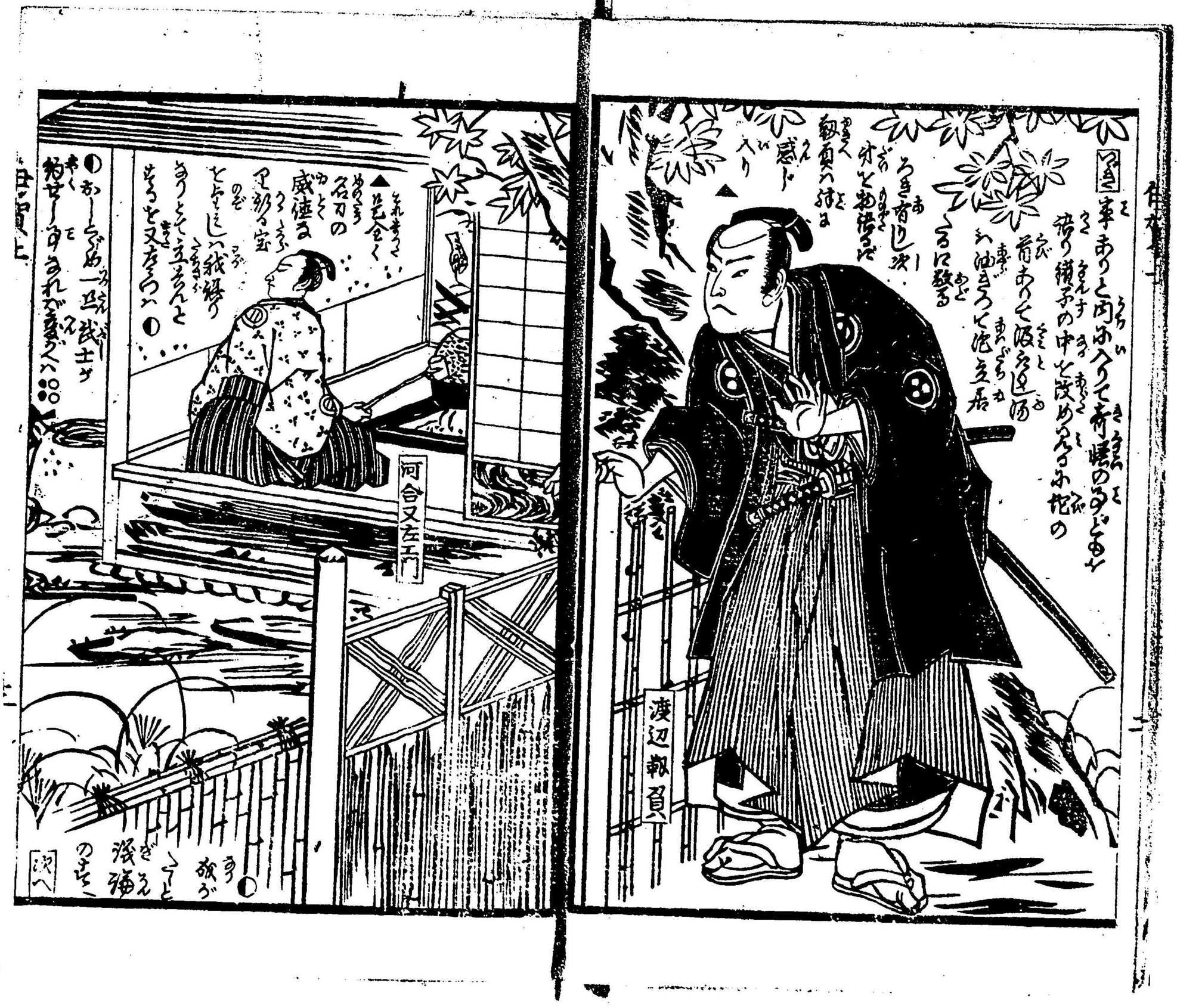
特42
879

渡邊數馬
荒木又右衛門
北藤武右エ門
山添伊兵衛


渡辺報負
河合又左エ門

つゞき
河合又左エ門
一子
三本

渡辺數馬
渡辺報負
荒木又右エ門
娘

荒木又右衛門

渡辺勲負
河合又五郎
次へ

つゞきて又五郎は一度くさんと切歯を
噛て怒り
鞘頭へ移る
事と云ふ初代
定へ移りて
よりて
が正宗を移く
試ふ移くるを
移と知らば試ふ
うみ万一のを引
刺さんやしき大刀と
そのまゝ
生使ふるに赤く光り
何の事も言ひ換ふ故んと
鞘
頭へ
に
❶案内を乞て去るべき
座敷へ通る移り

阿部四郎五郎

武士道の志厚き

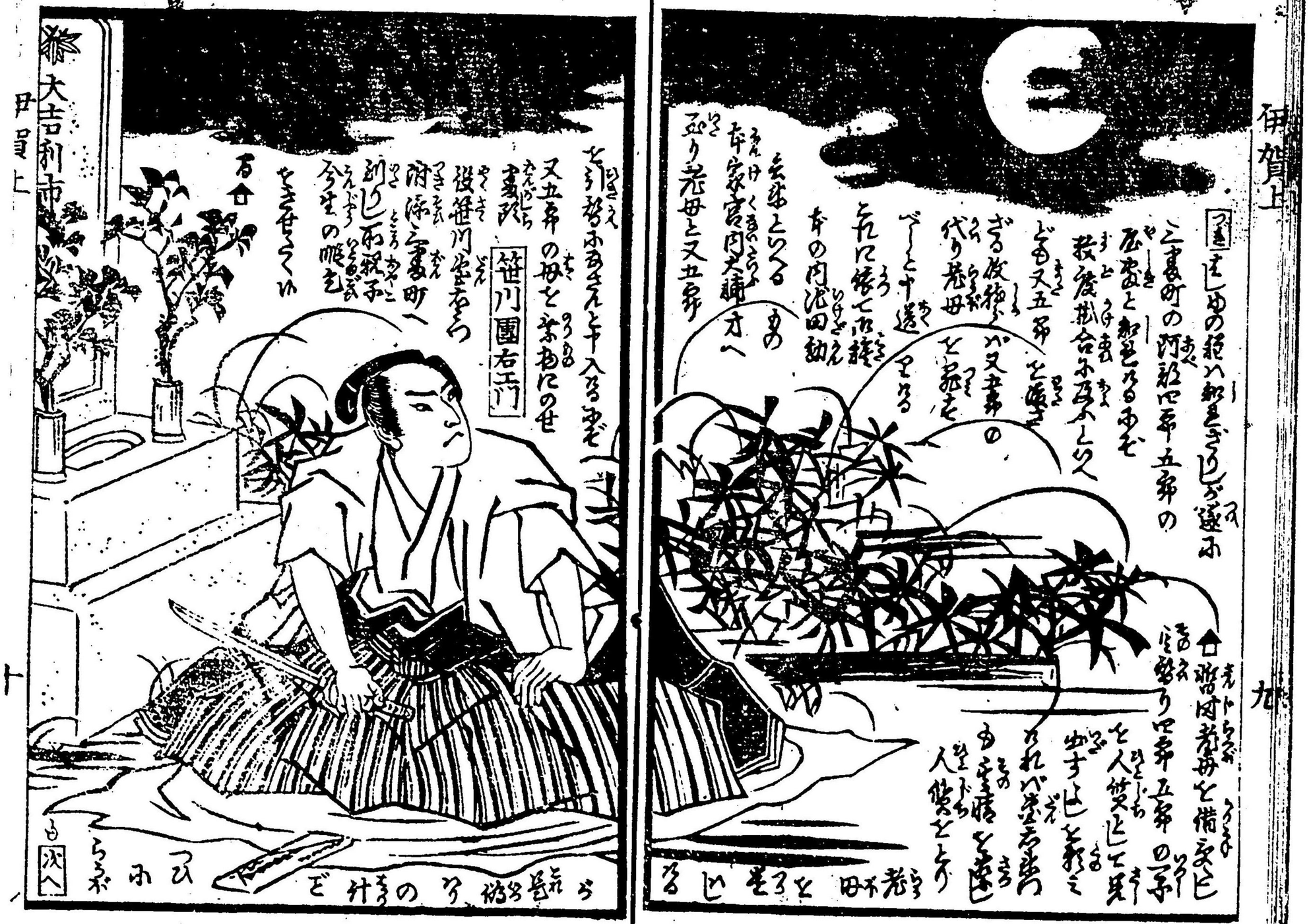
兼松又四郎

又五郎

大久保主膳

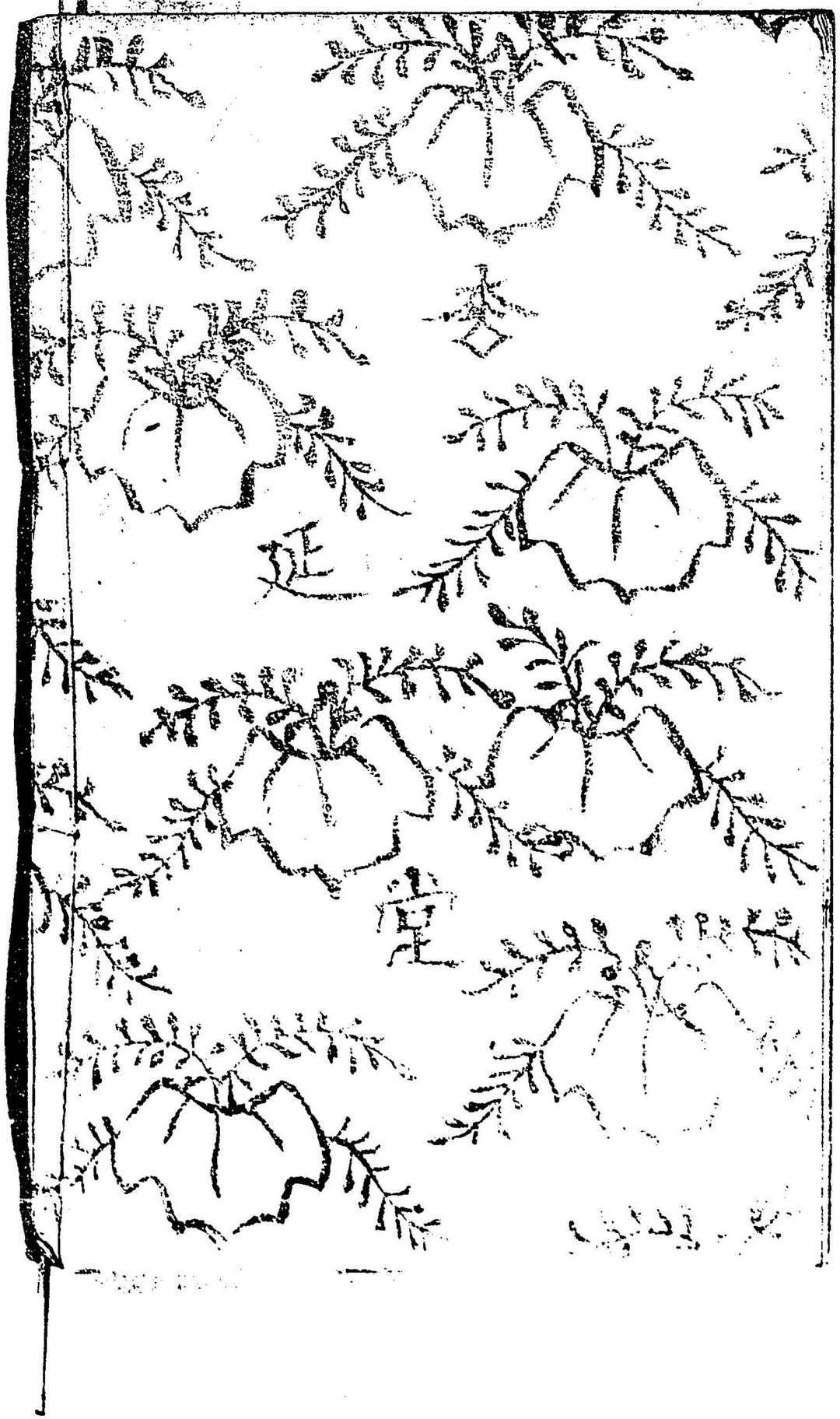
近藤登之助

池田勘兵工


つ長
ゆの紋い紋をさりしが遂ふ
こ事所の河紋四郎五郎の
原家と紋をるゆそ
教後拙合ふ及ふとの
ども又五郎と
ざる故後い又五郎の
代り老母
と家を
べくと中遂
元に張て出縫
郎の内沈田紋
云家とのる
郎家宮内大輔方へ
郎り老母と又五郎
階団新毋を備交ヒ
ゆ家生繁り四郎五郎の
を人笑ヒて見
出すヒを彩ミ
れば老母
毋を嘲を
人笑ヒとり
老田をるヒ

を引ふ
又五郎の母と家あにの世
書政
笹川園右エ門
役笹川坐右ゑ
衍添ニ家町へ
刎り和祝子
今生の姫を
を世ゑくい
右
大吉利市
次へ
ら紋ふ
ひふ
ら紋の
ゆ紋ゆ
ど

明治十二年六月三日御届

編輯兼出版人　東京日本橋区茅場町廿番地　大西定之助

賣三錢五厘